

【パターン】

農業生産活動

鳥獣被害

電気柵等対策実施

効果不十分

農業生産活動

被害に遭いながら、がんばって耕作を続けている地域。

これは、個人個人でイノシシガード等を設置するものの、完全に防ぎきれず毎年被害にあっていたり、守りにくい地形のためにどうしても進入されてしまう場合で、各地で非常に多く見られる形。

多くは林地と接したり、沢沿いであったり、防護するには厳しい条件の中で、何とか工夫しながら、がんばって耕作を続けられている農地を多く見た。

自家用野菜だけでなく、出荷されている場合でもこの形は普通に見られる。

ただし、早く地域として電気柵等対策を実施しないと、一気に遊休化するおそれがある。

なお、生坂村のぶどう団地の場合は、ハクビシンに対する有効な対策がなく、オリを個人で設置することで対応しているが、効果は決して十分ではない。地域の重要な産業だけに、早期に効果的な対策を見つけることが重要。



長野市若穂地区

高齢のため作業は困難であるがイノシシとシカによりりんごの花芽や幹、枝に被害を受けるため、下枝に果実をならせない仕立てに変えている。



中野市間山地区

イノシシ、シカ害から守る電気柵を設置。効果はあるが、もぐられたり被害はまだある。支柱を補強しつつ、農地を守ろうと努力。



生坂村草尾地区

村の特産である巨峰にハクビシン被害が出、袋の上からネットをかぶせたが、それも破られた。オリで対応。



伊那市西春近
山本小屋敷地区

自力で整備した水田に沢と山からイノシシ、サル、クマが出る。個人で柵を作っているが被害は大きい。



上田市武石
茂沢地区

ほ場整備した3haがイノシシ、シカにやられ、米・大豆・野菜・そばと作ったが被害。現在クリとクルミに取り組む。